

## 寅さん歩 その 26

### 東京の主要道路の起点～終点



### 多摩堤通り－2

平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」と歩いてきました。

今回は「多摩堤通り」を歩いています。この道も桜の時期を待っていました。

多摩堤通りは大田区蒲田の第一京浜の東蒲田二丁目交差点を起点に、世田谷区喜多見七丁目の世田谷通り砧中前交差点に至る延長約15kmの道です。

写真右上は多摩堤通りの道路名標識（都道11号線）です。今回は起点から大田区田園調布四丁目交差点まで歩きました。

今回は大田区田園四丁目調布四丁目交差点から終点まで歩きます。

掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

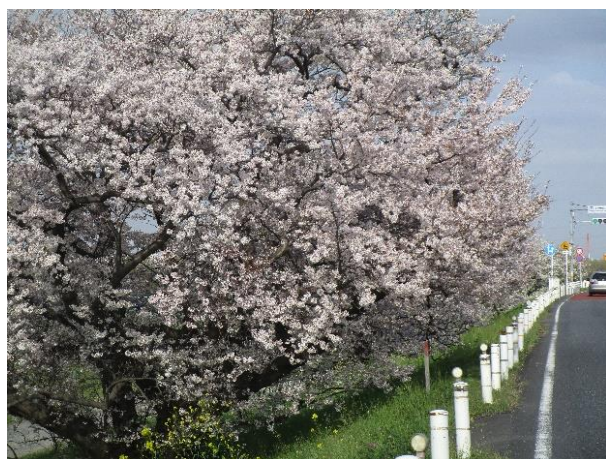
バーチャルウォークの途中経過も報告します。

### [多摩川の桜] 大田区田園調布四丁目～玉川一丁目

最寄駅 東急多摩川線 多摩川駅～東急田園都市線 二子玉川駅

二子玉川方面に向かって多摩堤通りの左側は多摩川が流れています。その土手（堤）が桜の並木道です。大木の枝にこぼれんばかりの桜が咲いています。2023年の東京の桜の満開発表は3月22日でしたが、7日後の3月29日の撮影です。

写真下の田園調布四丁目・五丁目、玉堤一丁目・二丁目、野毛二丁目までの桜並木を堪能してください。玉堤二丁目では港区白金台一丁目が起点の目黒通り（都道 312 号線）の終点と交差します。





## [駒沢通りとの交差点] 世田谷区玉川一丁目

トンネルがあったので右側の二子玉川公園に入り、トンネルの向こう側に出ました。玉川一丁目では渋谷区広尾一丁目起点の駒沢通り（都道 416 号線）の終点と交差（写真下左）します。写真下右は交差点の桜です。



## [二子玉川駅] 世田谷区玉川一丁目

最寄駅 東急田園都市線/東急大井町線 二子玉川駅

写真下左の右側が二子玉川駅です。直進してガード（写真下右）をくぐります。



## [二子玉川交差点] 世田谷区玉川一丁目

田園都市線 二子玉川駅

ガードの先は二子玉川交差点（写真下右）です。渋谷区桜丘町が起点の玉川通り（国道 246 号線）の終点です。多摩堤通りは直進ですが、交差点では直進できず、右に渡り、交差点を渡ります。右折が多く渋滞するためのもので車優先で歩行者を考えない交差点です。



この辺りから多摩川堤通りの左側は「野川」が流れています。左側に東京らしいお寺（写真下左）がありました。浄土真宗本願寺派（西）「慈船（じせん）寺」です。



**[仙川]** 世田谷区蒲田三丁目 最寄駅 二子玉川駅からバス利用

鎌田橋で「野川」から分かれた「仙川」を渡ります。写真下左右は仙川沿いの桜です。





## [次大夫堀公園] 世田谷区喜多見五丁目

最寄駅 小田急線 成城学園前駅



多摩堤通りはまた野川に沿って進みます。写真上左は通りの左側にある「次大夫堀公園」案内板と近くの桜(写真上右)です。「次大夫堀」とは江戸時代に小泉次大夫の指導で開削された農業用水(六郷用水)で、公園内に江戸時代の古民家を移築・復元した民家園があります。

寅さん歩 125 東京に こんな

ところ-1 をご覧ください。写真上は先にある野川」の桜です。

## [砦中前交差点] 世田谷区喜多見七丁目

最寄駅 小田急線 成城学園前駅

世田谷通り（都道 3 号線）と交差する砦中前交差点（写真下右）が多摩堤通りの終点です。左へ行くと町田方面、右へ行くと三軒茶屋方面、直進すると成城方面です。



これにて多摩堤通りを起点から終点まで歩きました。目玉は多摩川土手の桜並木でした。でも歩道が狭く、ガードレールもないので桜見物は河川敷に下りたほうが安全です。多摩川堤の桜並木前後はひたすら歩いた感が残った道でした。

## [バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク 松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。

全行程約 600 里 (約 2400 km) の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022 年 4 月 26 日、江戸深川（現在の江東区深川）を出発、2023 年 4 月 22 日 金沢（現在の石川県金沢市）（江戸深川から 1723 km）に到着しました。

八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

金沢には 7 月 15 日から 24 日まで滞在した。ここは北陸の中心地として俳諧が盛んで、薫風に心寄せるものが少なくなかったからである。

一笑という者は、この俳諧の道に熱心だという評判を聞いていたが、去年の冬若死にしてしまったとのこと、その兄が追善の句会を催したのに際し、

「塚も動け わが泣く声は 秋の風」

(注釈：君の死をいたみ悲しむわたくしの慟哭(どうこく)の、地中の君が霊に届き、動くべくもない塚も動けよかし。わが慟哭の声は、瀟殺(しょうさつ)(物寂しい様子)たる秋風に和し、秋風はわが傷心を運んで、君の塚の上を吹きめぐる)

ある草庵に誘われて

「秋涼し 芋ごとにむけや 瓜なすび」

(注釈：時節柄、新鮮な瓜や茄子のもてなしもいかにも野趣に富んで涼しげだ。皆さん、ひとつ気楽に、てんでに皮をむいて御馳走にあずかろうじゃありませんか。こうしていると、残暑とはいえ初秋新涼の気がしみ通ってくるようだ。

金沢の後、山中、越前、福井、大垣へと向かい旅を終える。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

平野 寅次郎 拝